



## 【第332号 紙面案内】

第1面…第88回全国研究大会 開催校による統一論題解題	第6面…第87回全国研究大会 大会開催記
第2面…理事会報告	第8面…部会より
第3面…令和5年度 年次総会報告	第9面…実・学一体推進特別委員会等 共催の特別研究会報告
第4面…第88回全国研究大会 開催校案内	第11面…新刊著書紹介
第5面…関東部会からのお知らせ	第12面…学会事務局

## 第88回全国研究大会 開催校による統一論題解題

大会実行委員長 村山 元理（駒澤大学）

2019年にパーパス経営の元年ともいえる動きがありました。その背後には、環境・人権に関する喫緊のグローバル課題があります。日本でも、存在意義と訳されるパーパスがバズワードとなりました。しかし、パーパスが注目されるはるか以前より、日本の経営学では経営理念の研究が進められてきました。どちらも多義語ながら、価値観や信念といった点で共通点があります。私たちはパーパスや経営理念をどう理解し、どう実践していけばよいのでしょうか。日本経営教育学会の創設時の名簿では、創設者の山城章先生の専攻分野の一番目に「経営理念」と示されています。パーパスと経営理念は、本学会には避けては通れないテーマといえるでしょう。

このような背景から統一論題を「マネジメントにおけるパーパスと経営理念」として第88回全国研究大会を開催します。日程は、2023（令和5）年10月6日（金）から8日（日）の3日間、メイン会場は、本学会の経営理念研究部会開設の地である駒澤大学駒沢キャンパス種月館2階です。

企業見学では、「日本的企業家魂の館」企業家ミュージアムを訪問し、戦前戦後の日本の発展に貢献した経営者の経営理念に触れていただきます。統一論題では、午前に研究者中心のパーパスと経営理念について基礎的な議論を行います。午後には、実務家をメインにした実践におけるパーパスと経営理念のディスカッションを行います。企業家ミュージアムの市川覚峯氏も登壇致します。特別講演は凸版印刷株式会社代表取締役副社長執行役員の大久保伸一様をお招きし、「人材」ではなく「人財」と表現する同社のウェルビーイングの取り組みについてご講演いただきます。明けて日曜午前に経営理念から見たパーパスとはどんなものか、経営理念研究者と実務家による報告とディスカッションを行います。午後は会員皆様による自由論題と、特別セッションをご用意いたします。

異例の秋の東京開催ですが、今大会も「実・学一体」の理念のもと、充実した大会にしたいと考えております。そのためには、フロアの皆様からのディスカッションが欠かせません。ぜひ奮ってご参加ください。

## ◇◇理事会報告◇◇

1. 日 時：2023(令和5)年6月3日(土) 17:00~18:00

2. 会 場：(オンライン)

3. 議 題：

(1) 令和4年度活動報告及び収支決算について

- ・井上組織委員長より、令和4年度活動報告が報告され、承認された。
- ・當間総務委員長より、令和4年度収支決算が報告され、令和4年度の監査が適正であることが承認された。
- ・第89回以降の全国研究大会について、開催校など検討中であることが会長より報告された。第89回大会は理事選挙があるため、関東で開催すること、第90回は関東以外での開催予定であることが説明された。

(2) 令和5年度活動計画及び収支予算について

- ・井上組織委員長より、令和5年度活動計画について説明が行われ、承認された。
- ・當間総務委員長より、令和5年度収支予算についての説明が行われ、承認された。  
会報等をオンライン化やメールマガジンの活用により、収支の改善及び学会活動の活発化について説明がなされた。

(3) 各委員会・地方部会・研究部会からの報告について

- ・文国際委員長より、5月に開かれた韓国経営教育学会の春季全国大会に表敬訪問したことが報告された。シンポジウムを共同でできないか模索中であることが説明された。
- ・大野関東部会長より、7月23日(日)に文京学院大学において対面で開催予定であることが報告された。
- ・村山経営理念研究部会長より部会を8月に開催予定であることが報告された。

(4) その他

- ・2023(令和5)年6月9日(金)~6月11日(日)の日程で開催される第87回全国研究大会(文教大学)の準備状況について第87回全国研究大会の田中大会実行委員長より説明がなされた。
- ・今後の部会等の開催形態について、状況に応じて対面だけでなく、ハイブリッドも検討していくことが説明された。

以上

## ◇◇令和5年度 年次総会報告◇◇

1. 日 時：2023(令和5)年6月10日(土) 16:00～16:48
2. 会 場：文教大学
3. 議 題：
  - (1) 令和4年度活動報告及び収支決算について
    - ・井上組織委員長より、令和4年度活動報告が報告され、承認された。
    - ・當間総務委員長より、令和4年度収支決算が報告され、樋口監事・手塚監事により令和4年度の監査が適正であることが報告され、承認された。
  - (2) 令和5年度活動計画及び収支予算について
    - ・井上組織委員長より、令和5年度活動計画について説明が行われ、承認された。
    - ・當間総務委員長より、令和5年度収支予算についての説明が行われ、承認された。
  - (3) その他
    - ・次回第88回全国研究大会について、2023(令和5)年10月6日～8日に駒澤大学で開催されること、また、第89回全国研究大会では理事選挙が行われることが説明された。
    - ・松村会長より会員数が564名であり、会員増強を今後も継続していくことが示された。また、会報等のオンライン化やメールマガジンの活用による、収支の改善及び学会活動の活発化について説明がなされた。
    - ・会報等の電子化に伴い、PC等を所持していない高齢者への対応について意見がなされた。
    - ・機関誌(学会誌)の電子公開の検討について意見がなされた。
    - ・研究部会に関する対面開催に関して意見がなされた。

以上

## ◇◇会報のオンライン化のご案内◇◇

会長 松村 洋平 (立正大学)

第87回全国研究大会の会員総会におきまして経費削減の一環として機関誌の年一回の発行と会報のオンライン化が承認されました。会報は引き続き、発行を続けてまいります。2024(令和6)年2月発行の第334号から郵送でのお届けを止め、ホームページ上からのダウンロード、メールマガジンでの添付となります。

ご理解とご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

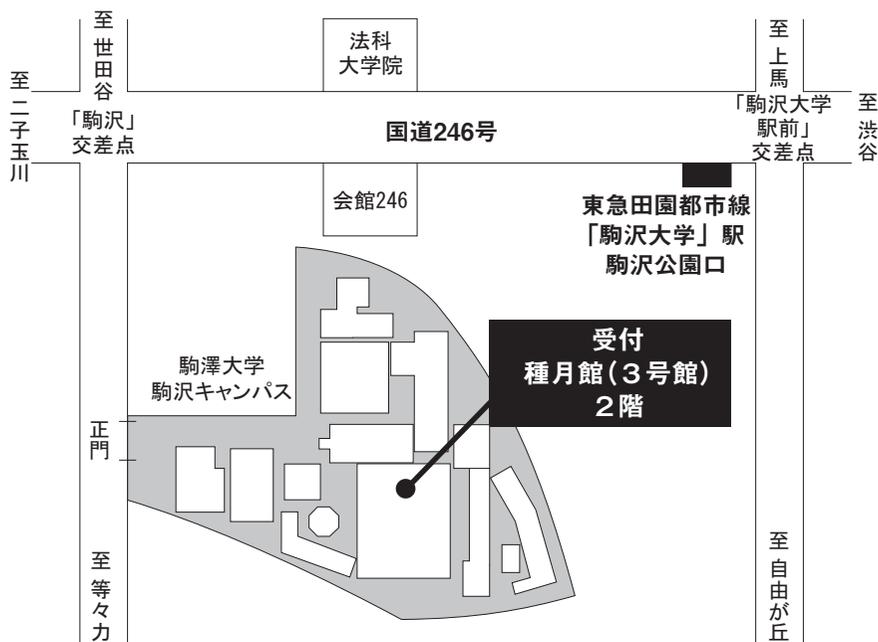
## ◇◇第88回全国研究大会 開催校案内◇◇

### 駒澤大学・大学紹介

駒澤大学は、14,000名以上の学生が7学部と8研究科で学ぶ総合大学です。規模が大きく、スポーツ等の活躍等で知られる駒澤大学ですが、「仏教」の教えと「禅」の精神を建学の理念とする大学です。駒澤大学はその前身を1592年(文禄元年)の江戸駿河台吉祥寺境内にできた「吉祥寺会下学寮」にさかのぼることができます。のちに「学林」と呼ばれたこの学寮は曹洞宗によって禅の実践、仏教の研究、漢学の振興を目的としたものでした。1657年に学林は吉祥寺駒込に移転し、「旃檀林」と呼ばれましたが、これは現在の校歌(北原白秋作詞・山田耕筰作曲)にも歌われております。

明治になり曹洞宗専門学本校と旃檀林が合併し、1882年10月15日に麻布北日ヶ窪(現在の六本木ヒルズ付近)への校舎移転とともに「曹洞宗大学林専門学本校」となった本学は、1904年に専門学校令により大学として認可され、翌1905年に曹洞宗大学へと校名を変更いたしました。大正にはいって1913年に現在の駒沢の地にうつり、1925年に大学令による大学として認可され「駒澤大学」へと改称されました。

2016年の全国研究大会から2年後の2018年に、種月館が完成しました。皆様をお迎えするこの建物は、同年9月に経営理念研究部会を開催した場所でもあります。経営理念研究部会開設5周年、「未広がり」の第88回全国研究大会という二度とない機会です。ぜひお越しください。



開催日時：2023(令和5)年10月7日(金)～8日(日)

場 所：東京都世田谷区駒沢 1-23-1 駒澤大学駒沢キャンパス 種月館(3号館)2階

交通手段：東急田園都市線駒沢大学駅 下車15分

## 企業見学案内

企業見学は、神田お茶の水の企業家ミュージアムに訪問します。

「日本的企業家魂の館」とされるこのミュージアムには、日本の経済成長をリードした企業家の想いと思想が紹介されています。さらに、注目されている優良企業の経営理念と活動も展示されており、様々な刺激を受けることができます。

周りを見れば、昌平坂学問所跡、湯島聖堂、神田明神を付近に構える学問の要所にあります。駒澤大学の前身となる学林も江戸駿河台吉祥寺境内でしたので、ゆかりのある場所でもあります。パーパスと経営理念を扱う今大会に最もふさわしい場所といえるでしょう。

ミュージアムの代表は、数多くの大企業の指導にあたられた市川覚峯氏です。7日の統一論題でもご登壇されますので、あわせてお楽しみください。

開催日時：2023(令和5)年10月6日(金) 14時

場 所：東京都千代田区外神田2-2-19 丸和ビル2F

交通手段：JR・東京メトロ「お茶の水」駅より徒歩5分

※先着20名、事前申込制です。

## ◇◇ 関東部会からのお知らせ ◇◇

関東部会長 大野 和巳 (文京学院大学)

2023年(令和5)度第2回関東部会は、先に学会ホームページの年間行事予定(5月5日)にてお知らせしておりますように2023(令和5)年12月2日(土)に予定されております。

部会は、会員の皆様の相互研鑽・交流の場であり、研究成果の報告に限らず、研究経過の報告をしていただき、全国研究大会の自由論題報告や学会機関誌の投稿論文へとつなげていただく機会となっております。学会活性化のためにも積極的に応募いただければありがたく存じます。

なお、大会プログラム、開催校等の詳細につきましては、メールマガジンと学会ホームページにてお知らせいたします。

※報告者は随時、募集しております。報告希望の方は、

関東部会長・大野和巳 (kohno@bgu.ac.jp)

関東部会副会長・奥山雅之 (mokuoku@meiji.ac.jp)

関東部会幹事・平屋伸洋 (hiraya@meiji.ac.jp)

迄、ご連絡ください。

以上

## ◇◇第87回全国研究大会 大会開催記◇◇

大会実行委員長 田中 克昌 (文教大学)

日本マネジメント学会 第87回全国研究大会は、2023(令和5)年6月9日(金)から11日(日)、統一論題「次世代につなぐマネジメント 事業の創造と承継」のもと開催(開催校:文教大学)された。

会場となった「文教大学 東京あだちキャンパス」は、2021(令和3)年4月開設の新キャンパスである。全国研究大会の開催期間中は120名の学会参加者に恵まれ、大会運営を支援する学生も常時30名が聴講に加わることで活気があふれていた。結果として、コロナ前の対面開催特有の熱気と交流が戻ったことを実感できる全国研究大会となった。

初日(6月9日(金))は、今野製作所(東京都足立区神明)で企業見学(参加定員:14名)を行った。今野浩好社長が、自社製品の油圧爪付きジャッキ「EAGLE」と板金加工を中心とする事業や、設計及び生産管理システム等のデジタル化に関する説明をいただいた後、工場・ショールームの見学が行われた。

特に、モーションキャプチャーやハイスピードカメラを活用した科学的な溶接技術研究は圧巻であり、共同研究者のCreative Works宮本卓代表から、溶接技能訓練支援システムによる技能承継に関する解説については、多くの参加者が興味深く聞き入っていた。



今野浩好社長(中央)と企業見学の学会参加者

2日目(6月10日(土))午前の自由論題セッションは、大変興味深い報告と活発な議論が行われた。

2日目午後の統一論題セッションでは、「事業の創造とイノベーション・マネジメント」というサブテーマのもと、イノベーションの研究者(小具龍史先生(二松学舎大学)、東史恵先生(嘉悦大学))による報告とともに、丸亀製麺を世界展開するトリドールHDサステナビリティ推進部 大下浩平部長にソーシャル・イノベーションについて講演いただいた。

司会の羽田明浩先生(国際医療福祉大学)のリードのもと、イノベーション研究の大家である吉村孝司先生(明治大学)がご自身のイノベーション研究とも関連付けながら質疑を展開し、幅広く活発な議論が行われた。

総会のあと、NECスペーステクノロジー 片桐秀樹社長が、「宙への挑戦 — 宇宙品質のイノベーションと次世代への技術・技能の承継 —」というテーマで特別講演を行った。

片桐社長からは、宇宙事業に関する解説とともに、宇宙空間という究極的に厳しい環境に耐え得る人工衛星を製造するための「完全な仕事」の実現に向けて業務が細分化され、その

役割ごとに完全な業務を遂行するための創意工夫を込めたマネジメント手法について講演いただいた。また、人工衛星の製造を支える「現代の名工」から次世代に技術・技能承継を実現するための取り組みについても解説があった。本特別講演を通じて、多くの学会員が宇宙事業の先進性と困難性を理解するとともに、人工衛星が宇宙からの情報収集の手段として不可欠な社会インフラであるという認識を深める機会となった。



統一論題セッション(6月10日登壇者)

2日日夜の懇親会は、「個食オードブル」を活用したハイブリッドなスタイルで開催した。石塚浩先生(文教大学副学長・経営学部長)による開催校の挨拶から始まり、約100名の参加者のもと、大変賑やかな雰囲気のもとで学会員と実務家の交流を深める機会となった。

3日目(6月11日(日))午前の統一論題セッションのサブテーマは「事業・技術・ノウハウの承継におけるマネジメント」であった。統一論題セッションでは、NPO研究の第一人者である小室達章先生(金城学院大学)、今野製作所 今野浩好社長、グローバルBIG4であり全員が公認会計士という大企業であるEY新日本監査法人の人事トップである鈴木裕司常務理事から、小規模団体からグローバル大企業まで幅広い視野での事業承継と技術・技能の承継について講演いただいた。これを受け、司会の瀬戸正則先生(広島経済大学)のリードのもと、代表質問者の小野瀬拓先生(駒澤大学)からの「変えるもの」と「変えないもの」という問い掛けにより、大変興味深い議論が展開された。



統一論題セッション(6月11日)登壇者

3日目午後の自由論題セッションでは、魅力的な報告とともに、かつて学会長を務められた重鎮の先生方がコメンテーターや司会を担当された。

また、同時間帯開催の「産学連携フォーラム」では、櫻澤仁先生(文京学院大学)、奥山雅之先生(明治大学)、柴田仁夫先生(岐阜大学)、瀬戸正則先生(広島経済大学)の進行のもと、実務家の学会員(村井淳社長(東急ホテルズ)他)も加わり、部会横断かつ産学連携の実学一体となった議論が交わされた。産学連携フォーラムは、次回以降の全国研究大会でも継続開催されるとのことであり、多くの学会員が参加する形でより大きな活動となることが期待される。

改めて、3日間にわたり、多くの先生方にご参加いただき、感謝と御礼を申し上げます。

特に、全国研究大会の開催にあたっては、学会長の松村洋平先生（立正大学）、副会長の櫻澤仁先生（文京学院大学）、組織委員長の井上善海先生（法政大学）、総務委員長の當間政義先生（和光大学）から多大なるご支援を賜ったことに改めて感謝申し上げます。

また、大会実現と運営にあたって、大学校舎の全面的な無償貸し出しを認めてくれた文教大学、懇親会・弁当・飲み物サービスを担当し「個食オードブル」を発案・実行した文教サービス、大会プログラムや予稿集を印刷・配送した武蔵野コーポレーションと共立速記印刷の両社、そして、大会運営を支援し全セッションを聴講した文教大学 田中克昌ゼミナールと首藤洋志ゼミナールの学生たち、第87回全国研究大会の副実行委員長である首藤洋志先生（文教大学）、大会全日にわたり受付を担当した妻にも感謝の意を表したい。



大会運営を支援・聴講した文教大学 田中ゼミ

## ◇◇中部部会報告◇◇

中部部会長 村橋 剛史（朝日大学）

日本マネジメント学会中部部会は、経営行動研究学会、経営哲学学会と3学会合同で、2023(令和5)年5月21日(日)に第64回研究例会を行った。第1報告は名古屋国際工科専門職大学の今井範行氏により、「製造業のサービス化とデザイン思考」と題して、石原俊之氏（扶桑町商工会）の司会・コメンテーターで報告が行われた。トヨタ自動車のKINTOの事例をもとに、デザイン思考のアジャイル開発についての報告が行われ、その有効性などについて活発な質問、討議が行われた。

第2報告は朝日大学の村橋剛史氏により、「人的資本などの非財務情報の開示のあり方について」と題して、磯伸彦氏（浜松学院大学）の司会・コメンテーターで報告が行われた。人的資本可視化指針を中心に最近の人的資本の開示の動向についての報告が行われ、人的資本の開示のあり方について活発な質問、討議が行われた。

中部部会では慣例として経営行動研究学会、経営哲学学会と3学会合同で実施しており、随時報告者を募集しています。ご希望の方は中部部会会長・村橋 剛史（TEL：058-329-1359 E-mail：murahasi@alice.asahi-u.ac.jp）までお問い合わせください。次回は2023年12月9日(土)または16日(土)の予定です。みなさまの応募をお待ちしております。

## ◇◇関東部会報告◇◇

関東部会副会長 奥山 雅之 (明治大学)

2023(令和5)年7月23日(土)午後1時から令和5年度第1回関東部会が対面形式で開催された。出席者は登壇者を含めて36名、3つの報告があり、それぞれ報告40分、コメント10分、質疑10分で実施した。

第一報告、報告者は粟屋仁美氏(文京学院大学)、テーマは「再資源化ビジネスのダイナミズムの解明—ダイナミック・ケイパビリティ論のフレームワークを活用して—」、司会は中村公一氏(駒澤大学)が担当した。本報告では、ダイナミック・ケイパビリティ(以下「DC」)論を用いて、再資源化ビジネスの事例においてミクロ的考察を試みている。事例企業では Sensing として新しいビジネスモデルの開発やグローバル市場における新しいゲームのルール形成を通して中古車部品市場を創造していることなどが報告された。コメンテーターの永野寛子氏(立正大学)からは、他企業とのアライアンスに関して、「関係ケイパビリティ」の強化、事例企業の実施状況などの議論が提起された。

第二報告、報告者は亀川雅人氏・大野和巳氏・平田博紀氏・草野千秋氏(文京学院大学)、テーマは「スタートアップ企業の価値評価と人的資本」、司会は石毛昭範氏(拓殖大学)が担当した。報告では、2022年に資金調達を実施した一定のスタートアップ企業を対象として、「資金調達前の価値評価額」を、どのような人的資本の要素で説明できるか定量的な分析を試みた。本研究は、文京学院大学所属研究者の共同研究として、財務、組織、戦略など多様な視点で分析される予定である。コメンテーターの糟谷崇氏(杏林大学)からは、資金提供側の研究にも応用可能性があるとのコメントがあった。

第三報告、報告者は山中伸彦氏(立教大学)、テーマは「電子デバイス産業における企業間取引のガバナンスの実態—予備調査結果の報告とGVCガバナンス理論の批判的検討—」、司会は樋口弘夫氏(和光大学)が担当した。本報告は、Gereffiらの理論に対し定量的手法を用いて批判的な検討を加えた。調査のサンプル数は少ないものの、同理論の類型化の基となる尺度項目のいくつかにおいて、同理論とは異なる傾向がみられた。コメンテーターの福原康司氏(専修大学)からは、電子デバイス産業以外のサンプル収集の重要性などについてコメントがあった。

## ◇◇実・学一体推進特別委員会等共催の特別研究会報告◇◇

副会長 櫻澤 仁 (文京学院大学)

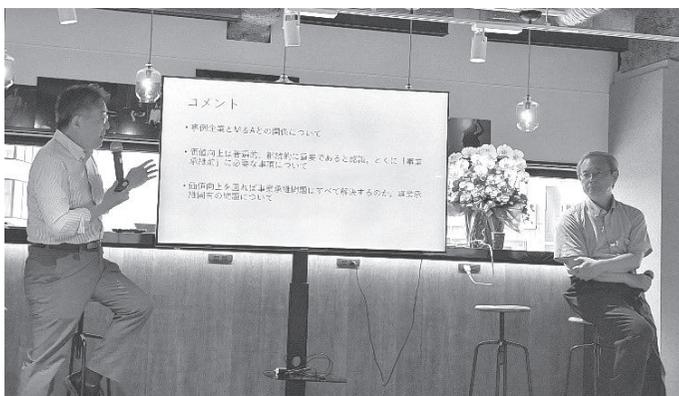
2023(令和5)年7月29日(土)午後1時30分から代々木八幡駅近くの株式会社ダイアナ本社7Fホール The Core of Dにおいて、実・学一体推進特別委員会、経営実践コンサルティング研究部会そして経営革新研究部会共催による特別研究会が開催された。この実験的な試みは3月の関東部会、6月の文教大での「産学連携フォーラム」に続く、「事業承継問題の多面的検討」に関する第三弾の研究会となるものである。当日のテーマは『第三者承継・プロ経営者そして経営革新』であり、今回は学会のアドバイザーボードメンバーでもある

NPO 法人 Prenet21 中小企業事業継続支援機構代表理事の瀬本博一氏、スペシャルゲストとして株式会社ダイアナ代表取締役社長兼会長（東京ニュービジネス協議会副会長）の徳田充孝氏の両氏を招聘しつつ、それぞれ報告40分・進行役との対談15分・フロアとの質疑応答15分、「70分イベント2本組」という、かなりタフかつ濃密な議論機会の設計がなされた。参加者は約20名、山口・広島等からの熱心な遠距離出席者もおられた。

これまでの二回の研究会においては、「アフターコロナの事業承継と後継社長の経営」、「第三者継承の可能性を探る…戦略発想のトランスフォーメーション…」に焦点を当てつつ、当該ホット 이슈の質的变化動向と多様な承継主体の存在そして新たな展開の実態把握を行ったが、今回は事業承継支援のベテランと第三者承継の当事者としてのプロ経営者からの現場報告という、学会内の三つの活動組織特性とそのネットワーク力をいかに発揮した企画となっている。二人のゲストの話の内容はオフレコ案件満載の実録ドラマであり、その概要すら会報誌掲載を控えざるを得ないようなものであったが、瀬本氏は「あるべき事業承継とは～小規模時計メーカーの再生事例を通して～」というタイトルのもと、自らがその支援を手掛けた秋田県内企業の事業承継事例を手掛かりとしつつ、承継を通じた企業再生が財務ではなく事業の再生であり、人の再生であることを強調していた。さらに不調の企業の多くはビジネスモデルに問題があり、従業員を巻き込みつつ企業価値の向上を図る取り組みの重要性を指摘していた。また仲介業者の利益相反の背後にある行動特性等についても詳細に触れていた。

これに対し、問屋業や上場アパレル企業でのCOO 就任経験とそこでの事業承継トラブルを経て、その後ファンド派遣のプロ経営者として株ダイアナの社長に就任後に自社をMBOで経営権取得した徳田氏は、創業一族との承継問題のトラブルの経緯や自社MBO時の複数の金融機関との交渉経過等を明らかにしつつ、企業価値の評価方法や様々なステイクホルダーとの関係調整の困難性と打開策等について、極めて熱く語っていた。さらにフランチャイズ経営や企業文化と承継の関連性等について、参加者やゲスト間でも議論が白熱し、そのまま懇親会になだれ込むこととなった。当日もまた猛暑日であったが、極めて快適な環境とホスピタリティ溢れるご対応で我々を受け入れてくれた徳田社長と株ダイアナの関係者の皆さまに、あらためて厚くお礼申し上げる。

実は本件に関連するビッグニュースもあるが、それは次号にてお知らせいたします。



瀬本氏(右)と討論者の奥山氏



熱く語る徳田社長

## ◇◇会員の最新刊著書を紹介します◇◇

木下耕二著『ダイナミック・ケイパビリティのフレームワーク  
：資源ベース再構成の組織能力』

(株)中央経済社 3,000円＋税

競争優位持続のため、ダイナミック・ケイパビリティ（DC）が期待されている。本書は、グローバル・ニッチ・トップ企業のM&Aに係るDCの実相を、ミドルマネジメントの貢献の観点から、統合的な調査・分析の枠組みに基づき探究した。

## ◇◇会員最新刊著書紹介欄への申し込み方法◇◇

会員最新刊著書紹介欄では、会員著書の情報を掲載しております。本欄に書誌情報および内容紹介文の掲載を希望なさる方は、以下の手順に従ってお申し込みください。書誌情報のみの掲載も受け付けております。会員著書紹介欄に掲載できるのは、会員単著、会員同士の共著、共著者として会員が参加している著書、のいずれかに該当する書籍です。

掲載をご希望の場合には、会報発行月前月20日までに、会報委員長および事務局長宛に書誌情報、紹介文（100字程度）の原稿をお送りください。

会報委員長：n-hosoga@sophia.ac.jp

事務局長：jimukyoku@nippon-academy-of-management.com

紹介文掲載の場合は、完成原稿でお送りください。編集上の都合により、校正の必要が生じる場合は、会報委員会から連絡を差し上げることがありますので、よろしくご対応ください。

## 学会事務局より

## ◆◆会費のお支払いについて◆◆

令和5年度会費の支払期限が過ぎておりますので、未納の方は、次のいずれかの方法で至急お支払いをお願い申し上げます。

- ①ゆうちょ銀行への振込の場合 口座番号：00150-7-535064  
(既にご送付の請求書に添付の払込取扱票を利用すれば、振込手数料のご負担はありません。)
- ②みずほ銀行への振込の場合 飯田橋支店 普通預金口座 1388418
- ③他の金融機関からゆうちょ銀行への振込の場合 ゼロイチキョウ ○一九店 当座 0535064

## ◆◆会員情報の変更連絡のお願いについて◆◆

勤務先・自宅住所・電話番号・メールアドレス等の変更がある場合は、メールやゆうちょ銀行の払込取扱票の通信欄への記載により速やかに事務局までご連絡をお願い致します。

会員情報の変更連絡をいただけないために、機関誌、会報、請求書等が事務局に返却されるケースが多発しておりますので、これらを会員の皆様にタイムリーにお届け出来るように、是非ともご協力をお願い申し上げます

## メールマガジン・学会ウェブサイトをご利用ください

大会、部会の開催や募集、その他ニュースなどタイムリーにお届けするにはメールマガジンが最適です。ぜひメールアドレスの登録をお願いします。

また学会ウェブサイト (<http://nippon-management.jp/>) では、学会の最新の情報をアップしております。ブックマークへのご登録をお願いします。

## 編集後記

8月も中盤を迎え、猛烈に暑さ厳しい頃ですが、執筆いただきました先生方のご協力により、会報332号をお届けできますこと、心より感謝申し上げます。本号の記事にございますように、今後会報のオンライン化が進みます。長年親しまれたお届け方法から変更となりますが、どうぞご理解いただけますと幸いです。

(会報委員会 細萱 伸子(委員長)、本号担当：仁平 晶文、清水 健太)

発行 日本マネジメント学会  
(旧称：日本経営教育学会)

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5  
九段会館テラス2F  
株式会社山城経営研究所内  
TEL 050-1790-3506

E-mail: jimukyoku@nippon-academy-of-management.com  
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 ㈱ドットケイズ 〒03-5206-1626  
E-mail: win@good-ks.co.jp